

# 文化

## 「非電化」という思想

# 豊かさとは何か問い直す



広い敷地にユニークな建物が点在する



「非電化もみがらハウス」。建設費は20万円だ

健康食品だが、煎るとすぐに酸化してしまう。煎りたて、挽きたて、淹れたてのコーヒーは、おいしい上に健康にもいい。煎り始めると、最初カラコロと乾いた音を立てていた豆から水蒸気が出始め、鈍い音に変わる。さらに加熱すると再び乾いた音になり、よい香りが漂う。目と鼻を使いながら、浅煎りから深煎りまで好みの煎り加減にすることが出来る。

「この焙煎器を使うとコーヒーを1杯淹れるのに25分かかるが、8500台売れた。速さよりもプロセスを楽しむという人が、少なくとも8500人はいるといっていいのだ。日本人の豊かさの基準が多様化している。ただ藤村さんもインスタントコーヒーを全否定しているわけではない。時間をかければ飲むこともある。「非電化」をうたっているが、自身パソコンも使うしテレビも見ると。

藤村さんは、「日本人はとかく両極端に流れがち。そうではなく、アプロリエット・テクノロジー(適切な技術)が重要なのだ」と話す。エネルギーの浪費でも我慢の省エネでもない、必要なエネルギーだけを適切に使って暮らす。その上で各自が自分ならではの豊かさを追求していく。それが日本の進むべき道だと、提言しているように思えた。(林 健)

をさらに高めている。

天井には非電化天窓換気扇があり、床には換気口がある。換気扇は風車力でゆっくり回って天井付近の熱い空気を排出し、床下から冷気を取り入れる。断熱効果が高いので、真夏でも涼しく過ごせる。冬は換気口を閉めておけば、ストロプーフで十分暖かい。壁の窓は1つだが、天窓があるため室内は予想以上に明るい。

もみがらハウス」がある。三角パネルを組み立てて屋根、壁床を作り、それぞれ断熱材としてもみがらをたっぷり入れる。屋根にはスキを敷き詰め、壁には土と珪藻土を塗って、断熱効果

指導の下、4人の弟子が建てた。1年間住み込みで藤村さんの思想を学んでいる若者たちだ。いわば素人が建てた家だが、東日本大震災の揺れにもびくともしなかった。も

が、農家から夕夕でもらえる。この家の建設費は何と20万円だ。藤村さんは「今の日本の大きな問題は、若い人が元気を失っていること。その原因の1つが家を持つてないことだ。終身雇用で毎年給料が上がっていく時代ならローンも組めるが、今はそんな時代ではない。でも、素敵で、頑丈で、健康で、エコな家が自分で安く建てられるなら、若い人にも勇気が生まれるのではな



藤村さん

みがらはグラスウールと同等の断熱性能があり、耐久性に優れた断熱材だ

### 手煎り焙煎器

非電化工房は多様なオリジナル製品を作っており、一部は購入することもできる。非電化冷蔵庫などユニークな製品がそろっている。関心のある方は工房のホームページを参照されたい。

そんな製品の1つに手煎りコーヒー焙煎器「煎り上手」がある。ガスコンロの上で3〜5分左右的に振りながら加熱することで、むらなくコーヒーを煎ることができる。藤村さんによれば、「コーヒーは本来アルカリ性の

栃木県那須町に、発明家の藤村靖之さんが主宰する非電化工房がある。工房といっても単一の建物ではなく、広大な敷地内に建物が点在する一種のテーマパークだ。それぞれの建物には藤村さんならではの工夫が凝らされ、エネルギーやお金をたくさん使わなくても快適性を保てるようになって

いる。豊かさについて考え直す場所を提供したい」という、藤村さんの思いが詰まった場所だ。

### もみがらハウス

建物の1つに「非電化